

イソシジミの減少により、餌として使われなくなった(東京都内湾漁業興亡誌 1971 年)。

### イボニシ *Thais (Reishia) clavigera* (Kuster) (目八) 疣螺

アッキガイ科 殻長 4cm。殻全体が黒っぽい、殻口内は黒紫色、潮間帯岩礁域に生息。分布は北海道南部以南。

1990 年頃、有機スズによる生物の生殖異常「環境ホルモン」が自然界に生じた。イボニシでは、インポセックス(雌に雄の生殖器が形成される)があらわれ、産卵不能になるなど、生息数が激減した。イボニシは身近な貝であり、市民参加によるインポセックス調査が全国規模で実施された(例えば、コープかながわ 2008~2009)。

有機スズの使用規制は行われたが、現状では、本海域での集団産卵行動は特記すべき事例である(P27 写真)。



羽田空港浅場での採捕状況



黄色く見えるのがイボニシの卵嚢 (羽田空港浅場砂留堤 2012 年 7 月)



写真左： イボニシ集団産卵 (黄色部分)



写真右： 卵嚢部の拡大

イヨスダレ *Paphia undulata* (Born)

(六介) 伊予簾

